

R6なんと未来ミーティング<子育て世代> 実施報告書



令和6年7月30日

株式会社人づくり・学び舎 作成

1. 事業概要

(1) 背景

近年の全国的な地域課題として、地方における少子高齢化と急激な人口減少は年々深刻さを増している。南砺市においても若者の流出に歯止めがかからず、人口減少が加速度的に進行していることは、喫緊の課題の一つである。若者が流出する要因や、若者が南砺市へ戻ってくるための方策を様々な立場の方々から意見を聴き、南砺市の施策立案に活かすために本事業を実施した。

(2) 目的

本事業では、実際に子育てをしている世代（親の立場）のリアルな意見や声を収集することにより、家庭や地域の中における意識や行動を掴み、保護者の方々からお子さんへの実際の関り、声かけなどについての考察を深めるものである。また、「地域×子どもたち」というテーマを用いることで、新たな視点で今起きている現象を捉えなおし、新たな可能性を探る事業とした。

2. 実施概要

南砺市PTA連絡協議会の協力を得て、広聴事業「なんと未来ミーティング＜子育て世代＞」を実施。
あえて意見を集約することせず、個別の意見の収集している

意見の収集は、以下の3点より行った。

- A) グループディスカッション時に使用した模造紙
- B) 終了時のアンケート

日時：令和6年6月24日（月）19～21時
場所：南砺市立福野小学校
参加者：南砺市PTA連合会（20名）
＜テーマ＞ メインテーマ：南砺版 こどもたちが帰りたくなる場所

○当日の流れ

3つのテーマを事前に用意し、各グループごとに話し合いをすすめる。

（テーマは、事前にPTA連合会との協議の上、設定している）

テーマ1 「地域とつながる」

テーマ2 「南砺の魅力」

テーマ3 「子どもの頃に戻ったらコレがあったら良かった」

1. グループワーク：「現状」「未来」（各グループごとに異なる質問項目を設定）
2. 発表：グループごとに発表。
3. 個人作業（アンケート）

3. グループワーク 意見 各テーマごとにディスカッション項目を提示

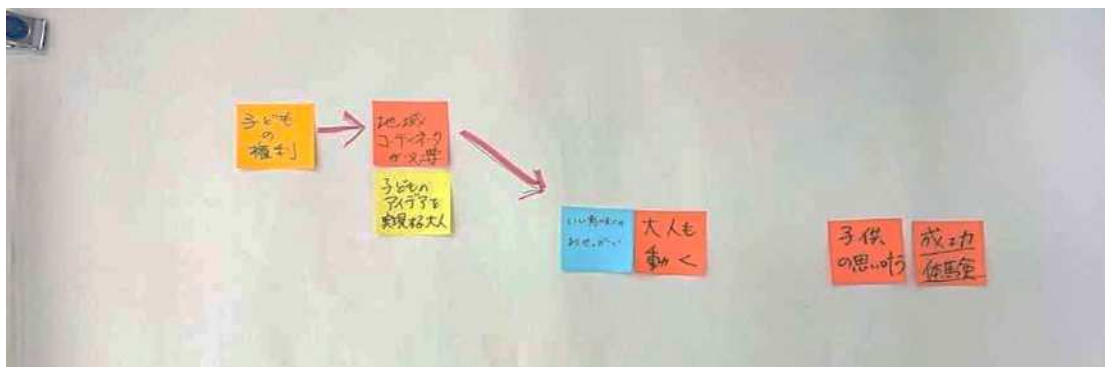
【テーマ1 地域とつながる、（地域とのつながりを考える）】

質問① 【現状】 現状認識の確認

- ・「子どもたち」と「地域」との接点は、現状どのようなものがありますか？
- ・子どもと地域が関わることで、どのような良い影響がありそうですか？

質問② 【未来】 そのために、自分たちができること

- ・どのようなやり方・関わり方があればいいと思いますか？
- ・どのような仕組みがあれば、子どもと地域が関わりやすくなると思いますか？



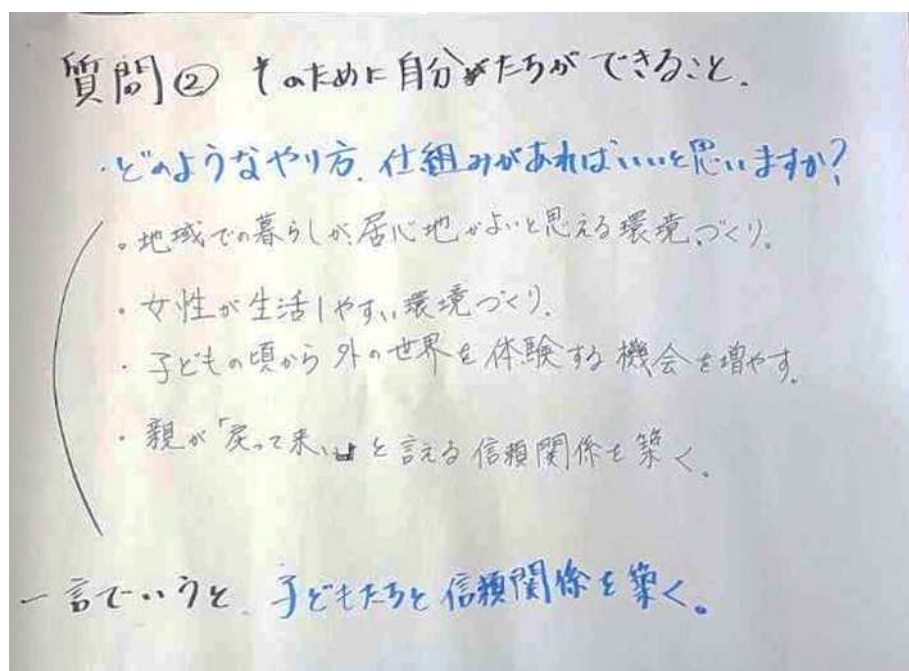
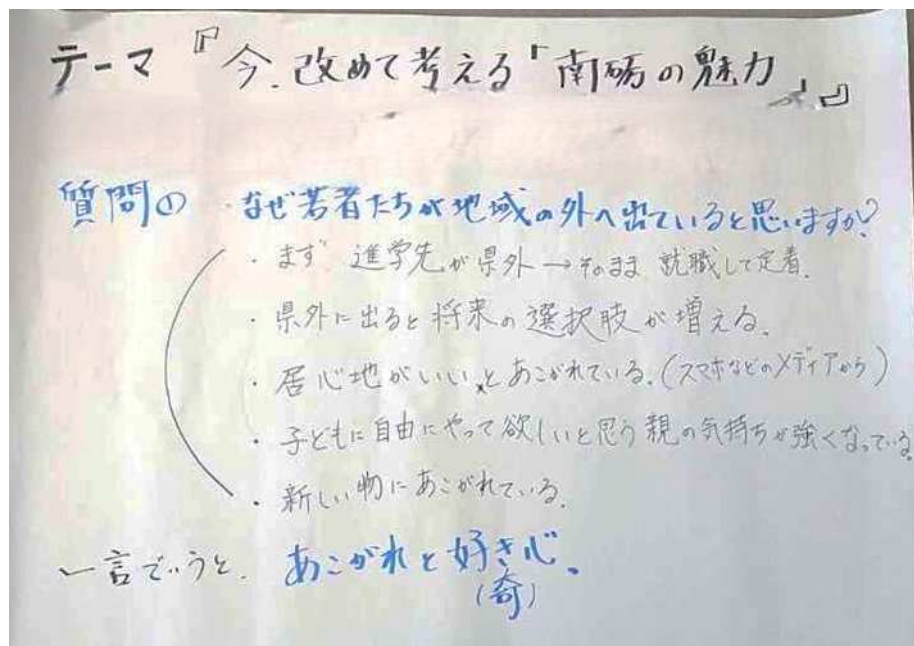
【テーマ2 今、改めて考える「南砺の魅力」】

質問① 【現状】 現状認識の確認

- ・なぜ若者たちが地域の外へ出ていると思いますか？
- ・いったん外へ出た若者たちは、なぜ地域へ戻らないのだと思いますか？

質問② 【未来】 そのために、自分たちができること

- ・どのようなやり方・関わり方があればいいと思いますか？
- ・どのような仕組みがあれば、地域の若者が増えると思いますか？



[illegible]

② どのようなやり方・関わり方があればいいか

③ どのような仕組みがあれば若者が増えるか

④ その他

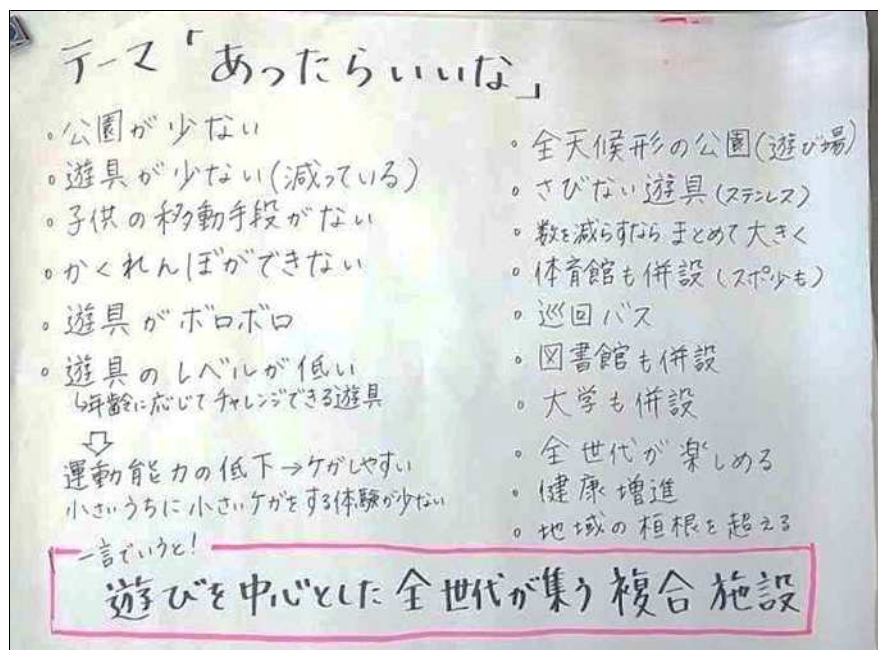
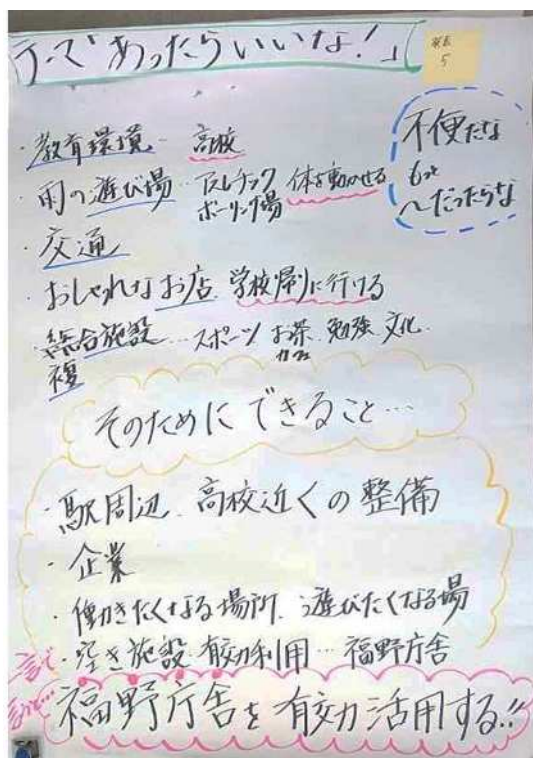
【テーマ3 子どもの頃の気持ちになって、、「こんなのあったらいいのに!」】

質問① 【現状】 現状認識の確認

- ・子育ての観点(親の立場)から見て、南砺市の不便だなと思うところがありますか?
- ・もっと「こうだったらいいのに、、」と思うところがありますか?

質問② 【未来】 そのためにできること

- ・質問①で出た意見を具現化するアイデアを考えてください。



4. アンケートによる回答（一部抜粋）

「今後、自分たちができること」

（地域とのつながり）

- ・面倒くさがらずに地域のイベントに参加していこう、関わっていく。
- ・地域の店の利用、イベントに積極的に参加したい。
- ・子どもと地域のつながりを1つでも自ら増やしていく。
- ・様々な行事、活動に参加する、子供たちとのふれ合いを増やす。
- ・子供達と地域をつなげる事をやってきたい。

（子どもとの関係性）

- ・我が子と超仲よくいつづけて、夢を叶えてあげる。
- ・我が子含め子どもたちの好奇心に寄り添っていききたい。
- ・こどもファーストで、物事を考える必要、大人はその伴走者にならなくてはいけない。
- ・まずは自分の子ども達と、将来とか現状について話をしてみたいと思いました。
- ・子供と将来について話し合いをすること。
- ・南砺に残ってもらえる、帰ってきてもらえるよう信頼関係を築いていきたい。

（発信/伝える/見せる）

- ・子どもたちに豊かな生活とはこうだよ!と少しずつでも伝えていく。
- ・若い世代にこの地域の良さをしっかり伝え、自分達がお手本となって楽しむ姿を見せていきたい。
- ・まず、自分、自分の家族、出会った人々に対して、南砺市のよさを発信しつづけたらよいと感じました。

（その他）

- ・子育て世代からも地域の未来について意志を出していけるようにがんばりたい。
- ・これをやろうということではなく、自分にできることを少しずつ見つけてやっていきたい。
- ・日々の暮らしの中で、いろいろな視点を持って捉えて、何ができるか考えていきたいと思います。
- ・寛容性、多様性

「未来ミーティングを終えての感想」 参加者の声

- ・意見と出し合う場を持つ事ができて良かった。大変良い経験ができました。
- ・多様な考え方が聞けて、考えの幅が広がった。
- ・南砺市の地域の垣根を超えて話をする事は大切だと感じました。
- ・改めて地域ができる事を積極的に取り組み、発信する必要があると思いました。
- ・みんな同じように考えていたり感じたりされているので、私たち世代がもっと声をあげていたら、より良い南砺市になると思いました。

- ・地域に子どもたちに戻ってきて欲しい土壌を作ることが大切という意識はある。
- ・ポテンシャルはある。で、どの様にアピールしていくかが課題だと感じた。
- ・親の背中、学校教育（あり方）、心揺さぶられる経験が子どもたちにとって大切だと確認できました。
- ・地域とのつながりは思ったより多いが、その密度には差がある。
- ・あらためて、若者が住み続けるまち、南砺市をつくっていかれたらと思いました。
- ・子育て世代が元気に前向き子育てできる街になるようがんばりたいです。
- ・「南砺市にもどる理由がない。」子供の意見にハッとした。



5. なんと未来ミーティング《子育て世代》をまちづくりへ活かすために

本年度はPTA連絡協議会の協力を得て、初めて小・中学生の保護者の意見の収集を行うことができた。子どもたちの進路・選択は自由に行わなければならないという前提はあるが、「学校」「家庭」「地域」それぞれの立場から、南砺市の魅力、子どもたちに直接伝えていくことの大切さと重要性について多くのグループから意見としてあがった。

多くの参加者から「このような場に参加できてよかった」「いろんな意見をきくことで考えの幅が広がった」など、保護者同士でも日頃は話をしないテーマだが、話せてよかったという声を多く聞くことができた。また、子ども達のみならず、保護者自身も南砺市や地域への興味・関心を深め、様々な経験や学びを得て、それらを体験として、家庭の対話の中に位置付けていくことによって、何かしらの波及効果も期待できるものと思われる。未就学期～児童期においては比較的「地域と子どもたち」、「地域と子育て世代」は関わりがあるが、子どもが小学校高学年から中学生になると、ほとんど関わりが無くなってしまいうということも、地域側の課題として問題提起していきたい。新たな関わり方を模索していく必要がある。

子育て世代は、南砺市の重要地域課題の当事者でもある。子どもたちと関わる大人のひとりひとりとして、地域の課題について意識と行動変容をすることにもつなげられる、このような「対話の場」は大変有用だと考える。

6. 各種メディア

《ケーブルテレビ》となみ衛星通信テレビ

ぐるっととなみ野ウィークリー 放送日時 7月8日(月)～ 14日(日)